

厚生労働科学研究費補助金 (障害者政策総合研究事業)
(総括・分担) 研究報告書

聴覚障害児に対する人工内耳植込術施行前後の効果的な療育手法の開発等に資する研究

研究分担者 神田幸彦 長崎大学 医歯薬学総合研究科 客員研究員

研究要旨

人工内耳植込み術施行前後の多職種連携による効果的療育に係る
好事例・青年～成人の先天性難聴症例に対する人工内耳植込み術
に関する新たな知見について

A. 研究目的

本研究は事例に関わる傾向をデータ収集して、将来的に我が国の先天性難聴人工内耳症例で好事例を収集、その傾向を調査するとともに、青年～成人症例のより良い聴覚回復に繋げられ、先天性難聴医療や人工内耳医療の社会的な啓蒙に結びつけられることを目標とする。

B. 研究方法

好事例集や先天性難聴青年～成人症例の調査依頼文作成や作成例、エクセルデータシートを作成。実態調査を行う。(倫理面への配慮) 研究対象者に対する人権擁護上の配慮のため、共同研究を行う予定の研究協力者の施設において倫理委員会申請などを行い、十分なインフォームドコンセントを行う。

また、保護者向けの先天性難聴児の療育リーフレットや難聴のお子さんと保護者のための難聴児療育のロードマップ。特に人工内耳に関してロードマップ作成に参加した。

C. 研究結果

あらかじめ作成した作成例に基づき全国の人工内耳医療機関、療育機関より情報収集、およびエクセルのデータベースを作成した。またデータ解析を主導した。リーフレット作成やロードマップ作成にも協力し参加した。

「好事例となった要因」としては 1) 保護者・家族の熱意、2) 多職種の適切な連携、3) 早期医療介入・教育、4) 適切な療育・積極的な聴覚活用であった。

また、「青年～成人の先天性難聴症例に対する人工内耳症例」では、1) 1～2歳で補聴器装用開始できるほど、早期発見が行われていた。2) 早期からのAVT療育方法や聴覚口話法などの聴覚活用教育で療育されていた。早期補聴、早期療育と考え合わせると、聴覚を活用した療育を幼小児から受けていたことが青年・成人期になっても聴覚路が形成されているために人工内耳を有効活用できたと考えられた。

D. 考察

人工内耳の多職種連携による好事例および先天性難聴の青年～成人症例は日本中の医療機関に存在した。わが国における人工内耳の正しい理解及び早期発見の重要性、難聴児に対する療育、特に人工内耳や補聴器で聴覚を高められて管理された聴覚を武器にAVT療育や聴覚口話法などの聴覚活用療育について啓蒙を図り、そのような療育ができる言語聴覚士や教員の育成を図っていくことも重要であると考察した。

E. 結論

人工内耳植込み術施行前後の多職種連携による効果的療育に係る好事例集および青年～成人の先天性難聴症例に対する人工内耳の症例の収集は重要であった。1) 保護者・家族の熱意、2) 多職種の適切な連携、3) 早期医療介入・教育、4) 適切な療育・積極的な聴覚活用及び早期からのAVT療育方法や聴覚口話法などの聴覚活用教育で療育が重要であり今後そのような医療関係者、教育関係者の育成と社会的な啓蒙が重要である。

F. 健康危険情報
特になし

G. 研究発表

1. 論文発表

・神田 幸彦、佐藤智生、吉田晴郎、小路永聡美、熊井良彦、高度～重度難聴幼小児療育 GL 作成委員会：第 16 回小児耳鼻咽喉科学会シンポジウム 1 「高度難聴児の診療と療育」 人工内耳装用前後の療育ガイドラインについて～先行の厚労省研究 2018 と考察～. 小児耳 43(1) : 14-23, 2022

・神田 幸彦、吉田 晴郎、佐藤 智生、小路永聡美、木原 千春、北岡 杏子、熊井 良彦、高橋 晴雄：「第121回日本耳鼻咽喉科学会総会シンポジウム」 難聴児療育システムの構築 —新生児期（新生児聴覚スクリーニング、先天性サイトメガロウイルス感染症含む）—. 日耳鼻124:1262-1269, 2021

・Iwasa Y, Nishio S, Yoishimura H, Sugaya A, Kataoka Y, Maeda Y, Kanda Y, Nagai K, Naito Y, Yamazaki H, Ikezono T, Matsuda H, Nakai M, Tona R, Sakurai Y, Motegi R, Takeda H, Kobayashi M, Kihara C, Ishino T, Morita S, Iwasaki S, Takahashi M, Furutate S, Oka S, Kubota T, Arai Y, Kobayashi Y, Kikuchi D, Shintani T, Ogasawara N, Honkura Y, Izumi S, Hyogo M, Ninoyu Y, Suematsu M, Nakayama J, Tsuchihashi N, Okami M, Sakata H, Yoshihashi H, Kobayashi T, Kumakawa K, Yoshida T, Esaki T, Usami S: Detailed clinical features and genotype–phenotype correlation in an OTOF-related hearing loss cohort in Japan . Human Genetics. 2021 Sep 18. doi: 10.1007/s00439-021-02351-7. Online ahead of print.

・神田 幸彦：難聴児に対するオンライン診療. 日耳鼻124(6): 925-927, 2021

・神田 幸彦：補聴器と人工内耳の聞こえの特徴に関する経験と考察. MB ENT : 45-55, 2020

・神田 幸彦、吉田翔：聴覚障害を持つ児童・生徒が受験する場合に英語のリスニングなどで優遇措置はありますか？. JOHNS 36 (9): 1128-1130, 2020

2. 学会発表

・神田幸彦：第 16 回日本小児耳鼻咽喉科学会シンポジウム「高度難聴児の診療と療育」 人工内耳装用前後の療育ガイドライン～先行の厚労省研究 2018 と装用者からみた考察～. 第 16 回日本小児耳鼻咽喉科学会. 2021 年 7 月（大阪、オンライン）

・神田幸彦：第 34 回日本耳鼻咽喉科学会専門医講習会シンポジウム「耳鼻咽喉科医による在宅医療の実際」—難聴児に対するオンライン診療—. 2020 年 11 月 7 日（大阪、オンライン）

・神田幸彦：第 121 回日本耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会シンポジウム「難聴児療育システムの構築」新生児期（新生児聴覚スクリーニング、CMV 含む）. 2020 年 10 月 6 日（大阪、オンライン）

H. 知的財産権の出願・登録状況
（予定を含む。）

1. 特許取得
特になし

2. 実用新案登録
特になし

3. その他
特になし